



アクティビティの使用

この章は、次の項で構成されています。

- [アクティビティ, 1 ページ](#)
- [アクティビティの作成, 2 ページ](#)
- [アクティビティとワークフローの関連付け, 3 ページ](#)
- [ワークフローへのアクティビティの追加, 5 ページ](#)
- [アクティビティのインポートおよびエクスポート, 7 ページ](#)
- [アクティビティの削除, 7 ページ](#)

アクティビティ

アクティビティは、ワークフローの入力変数に抽象化層を提供します。抽象化は、実際の実装からワークフロー仕様を分離することによって、管理シナリオ（テナント オンボーディングやアプリケーション導入など）を効率的に実行できるようにします。アクティビティを使用すると、次のことが実行できます。

- ワークフローの入力プロパティを定義し、それらのプロパティに1つ以上のワークフローを関連付けます。これにより、一致する条件に応じて、アクティビティが適切なワークフローをトリガーするようになります。
- アクティビティをワークフロータスクとして使用し、そのタスクを同様の、ただし異なる方法で実装された複数のユースケース シナリオで使用できるようにします。
- アクティビティは、プログラムによってトリガーすることも、動的に inputs を提供してトリガーすることもできます。

アクティビティの作成

アクティビティを作成するには、入力と出力を定義します。アクティビティを作成するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [オーケストレーション (Orchestration)] を選択します。

ステップ 2 [オーケストレーション (Orchestration)] ページで、[アクティビティ (Activities)] をクリックします。

ステップ 3 [追加 (Add)] をクリックします。

ステップ 4 [アクティビティの追加 (Add Activity)] 画面で、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[名前 (Name)]	アクティビティ名。
ラベル (Label)	アクティビティの表示ラベル。
[説明 (Description)] フィールド	アクティビティの説明。

ステップ 5 [次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 6 [ユーザ入力の追加] 画面で、[(+) 追加 ((+) Add)] をクリックして、ワークフロー入力プロパティを追加します。

a) [入力フィールドへのエントリの追加 (Add Entry to Input Fields)] 画面で、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
入力名 (Input Name)	アクティビティ ワークフロー入力の名前。
入力ラベル (Input Label)	アクティビティ ワークフロー入力のラベル。
オプション (Optional)	ワークフロー実行中に入力をオプションとして設定する場合は、[オプション (Optional)] をオンにします。
入力タイプ (Input Type)	[選択 (Select)] をクリックします。入力タイプを選択します。

b) [送信 (Submit)] をクリックします。

ステップ 7 [次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 8 [ユーザ出力の追加 (Add User Outputs)] 画面で、[(+) 追加 ((+) Add)] をクリックして、ワークフロー出力プロパティを追加します。

- a) [出力フィールドへのエントリの追加 (Add Entry to Output Fields)]画面で、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
出力名 (Output Name)	アクティビティ ワークフロー出力の名前。
出力ラベル (Output Label)	アクティビティワークフロー出力の表示ラベル。
出力タイプ (Output Type)	[選択 (Select)]をクリックします。出力タイプを選択します。

- b) [送信 (Submit)]をクリックします。

ステップ 9 [送信 (Submit)]をクリックします。

アクティビティとワークフローの関連付け

アクティビティに1つ以上のワークフローを関連付けることによって、アクティビティをワークフローの一部として実行できます。関連付けられたアクティビティが [ワークフロー デザイナ (Workflow Designer)]の [システム アクティビティ タスク (System Activity Tasks)] フォルダにカスタム ワークフロー タスクとして表示されます。

はじめる前に

アクティビティと、そのアクティビティが含まれる1つ以上のワークフローがあります。アクティビティの作成方法の詳細については、[アクティビティの作成](#)、(2 ページ) を参照してください。

ステップ 1 [オーケストレーション (Orchestration)]を選択します。

ステップ 2 [オーケストレーション (Orchestration)] ページで、[ワークフロー (Workflows)]をクリックします。

ステップ 3 [ワークフローの追加 (Add Workflow)]をクリックします。

ステップ 4 [ワークフローの追加] 画面で、次のフィールドに入力します。

名前	説明
ワークフロー名 (Workflow Name)	ワークフロー名。 (注) ワークフロー名に、 、"、%、&、'、*、+、,、.、/、:、;、<、=、>、?、^、および を含めることはできません。

名前	説明
説明	ワークフローの説明。
ワークフロー コンテキスト (Workflow Context)	ワークフローを使用可能なコンテキストを選択します。オーケストレータでは、次のオプションを使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> • [任意 (Any)] : 任意のコンテキストでワークフローを使用できます。 • [選択済みの VM (Selected VM)] : VM を選択する場合にのみ、ワークフローを実行できます。
複合タスクとして保存 (Save as Compound Task)	ワークフローを複合タスクとして定義するには、[複合タスクとして保存 (Save as Compound Task)] をオンにします。
新しいフォルダに配置 (Place in New Folder)	ワークフローを新しいフォルダに割り当てるには、[新しいフォルダに配置 (Place in New Folder)] をオンにします。[フォルダ名 (Folder Name)] フィールドが、[フォルダの選択 (Select Folder)] ドロップダウンリストに置き換わります。新しいフォルダの名前を入力します。
フォルダの選択 (Select Folder)	ワークフローを格納するフォルダを選択します。
開始ユーザに実行のステータスを通知する (Notify status of execution to initiating user)	ワークフローの実行ステータスを電子メールでユーザに通知するには、[開始ユーザに実行のステータスを通知する (Notify status of execution to initiating user)] をオンにします。オンにした場合は、[電子メール通知を送信する追加のユーザ (Additional User(s) to send Email Notification)] フィールドに追加の電子メール アドレスを入力します。ワークフローの実行ステータスは次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • 完了ステータス (Completed status) • 実行失敗ステータス (Failed execution status) • 実行キャンセルステータス (Cancelled execution status)

- ステップ 5 [次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 6 [ユーザ入力の追加 (Add User Inputs)] 画面で、[アクティビティに関連付ける (Associate to Activity)] をオンにします。
- ステップ 7 [アクティビティ (Activity)] ドロップダウンリストから、アクティビティを選択します。
選択されたアクティビティに基づいてユーザ入力テーブルが更新されます。
- ステップ 8 [次へ (Next)] をクリックします。
[ユーザ出力の追加 (Add User Outputs)] 画面に、選択されたアクティビティに基づいてユーザ出力が表示されます。
- ステップ 9 [送信 (Submit)] をクリックします。
ワークフローが作成され、[ワークフロー (Workflows)] レポートで使用可能になります。

ワークフローへのアクティビティの追加

1つ以上のワークフローに関連付けられたアクティビティが、[ワークフローデザイナー (Workflow Designer)] の [システムアクティビティタスク (System Activity Tasks)] フォルダ内のカスタムワークフロータスクとして表示されます。選択したアクティビティを [ワークフローデザイナー (Workflow Designer)] 作業領域にドラッグアンドドロップすることによって、アクティビティをワークフローに追加します。ワークフローの [コンテキスト入力 (Context Input)] テーブルで、アクティビティに関連付けられたワークフローの実行を制御するための条件を定義できます。

はじめる前に

アクティビティが [ワークフローデザイナー (Workflow Designer)] の [システムアクティビティタスク (System Activity Tasks)] フォルダ内のカスタムワークフロータスクとして表示されるように、アクティビティとワークフローを関連付ける必要があります。アクティビティとワークフローを関連付ける方法の詳細については、[アクティビティの作成](#)、(2 ページ) を参照してください。

[ワークフローデザイナー (Workflow Designer)] でワークフローを開きます。

- ステップ 1 [システムアクティビティタスク (System Activity Tasks)] フォルダからアクティビティを選択します。
- ステップ 2 選択したアクティビティを [ワークフローデザイナー (Workflow Designer)] 作業領域にドラッグアンドドロップします。
[タスクの追加 (Add Task)] ページが表示されます。
- ステップ 3 [タスク情報 (Task Information)] 画面で、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
タスク名 (Task Name)	タスクの名前。

名前	説明
タスク カテゴリ (Task Category)	タスクのカテゴリの名前 (選択済みの情報)。
タスク タイプ (Task Type)	タスクのタイプの名前 (選択済みの情報)。
説明	その他のタスク情報を入力します。
再試行の実行 (Retry Execution)	タスクが失敗した場合に、後でタスクを再試行するには、[再試行の実行 (Retry Execution)] をオンにします。この機能は、リソースの状態が不明で、タスクの再試行がその状態に依存する場合に役に立ちます。
再試行回数 (Retry Count)	再試行回数を選択します。
再試行の頻度 (Retry Frequency)	再試行間隔を選択します。タスクが成功するまで、または [再試行の頻度 (Retry Frequency)] に指定された回数失敗するまで、ワークフローは失敗したタスクの先には進みません。これはワークフローの次のタスクに進むか、完了します。

- ステップ 4** [次へ (Next)] をクリックします。
[ユーザ入力マッピング (User Input Mapping)] 画面に、アクティビティ用に定義された入力が表示されま
す。
- ステップ 5** ワークフロー内の対応する入力を使用する場合は、[ユーザ入力にマッピング (Map to User Input)] をオン
にします。
- ステップ 6** [コンテキスト入力 (Context Input)] テーブルで、[(+) 追加 ((+) Add)] をクリックしてコンテキスト入
力を追加します。
- a) [入力フィールドへのエントリの追加 (Add Entry to Input Fields)] ダイアログボックスで、次のフィー
ルドに値を入力します。

名前	説明
ユーザ入力 (User Inputs)	条件を適用する入力を選択します。
[条件の最小値 (Minimum Condition)] リスト	入力に適用する条件を選択します。
値 (Value)	条件に対して設定する値。
[関連付けられたワークフロー (Associated Workflow)] リスト	選択した条件を入力が満たした場合に実行するワークフローを選択します。

b) [次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 7 [再検証 (Revalidate)] をクリックして現在の値を再検証します。

ステップ 8 [次へ (Next)] をクリックします。

[ユーザ出力マッピング (User Output Mapping)] 画面に、アクティビティ用に定義された出力が表示されます。

ステップ 9 ワークフロー内の対応する出力を使用する場合は、[ユーザ出力にマッピング (Map to User Output)] をオンにします。

ステップ 10 [送信 (Submit)] をクリックします。

アクティビティのインポートおよびエクスポート

ワークフロー、カスタムタスク、およびスクリプトモジュールをインポートおよびエクスポートするために使用する [インポート (Import)] および [エクスポート (Export)] アクションを使用して、アクティビティをインポート、エクスポートすることもできます。

アクティビティをインポートする場合は、[ワークフロー、カスタムタスク、スクリプトモジュール、およびアクティビティのインポート](#)を参照してください。

アクティビティをエクスポートする場合は、[ワークフロー、カスタムタスク、スクリプトモジュール、およびアクティビティのエクスポート](#)を参照してください。

アクティビティの削除

アクティビティを削除できます。

ステップ 1 [オーケストレーション (Orchestration)] を選択します。

ステップ 2 [オーケストレーション (Orchestration)] ページで、[アクティビティ (Activities)] をクリックします。

ステップ 3 削除するアクティビティを選択します。

ステップ 4 [削除 (Delete)] をクリックします。

アクティビティの削除を確認するための [アクティビティ (Activities)] 画面が表示されます。

ステップ 5 [削除 (Delete)] をクリックします。
